

「自学自習」をコンセプトとする学び場が開講されて9か月が経過しました。児童生徒は毎回、各自で準備した課題に黙々と取り組んでいます。

私は「反省なくして進歩なし」という信念に基づき、学び場の児童生徒に対して質問紙調査を実施しました。目的は、彼らの学び場に対する思いを知ることや改善点を洗い出すことです。また、我々教師の指導力をより高めることです。

なお、本質問紙調査は、夫が担当する算数・数学も含めて実施しました。以下にその一部を紹介します。

○調査対象

学び場に所属する小学5年生から中学3年生の内、25名

○調査時期 令和4年12月

○調査内容 後述

○質問項目および結果

【質問1】 学び場の良かった点

- ① 学び場を利用して、学校の宿題や復習にしっかり取り組んだ。
25名/25名 (100%)
- ② 集中してじっくり問題に取り組んだ。
23/25 (92.0%)
- ③ 自分で課題（取り組む問題）を準備して学習できた。
21/25 (84.0%)
- ④ 友達や先生から教わって、分かる問題が増えた（問題が解けるようになった）。
21/25 (80.0%)
- ⑤ 自分の力で問題が解けるようになった。
19/25 (76.0%)
- ⑥ 学び場がない日でも、家庭学習をするようになった。
15/25 (60.0%)
- ⑦ 学び場後も家庭で学習する意欲が湧いた（帰宅後も学習した）。
14/25 (56.0%)
- ⑧ 友達に教える中で、自分がどこまで理解していたかを気づくことができた。
13/25 (52.0%)
- ⑨ 友達の質問に答え、教えてあげることで、自分の復習にもつながった。
10/25 (40.0%)
- ⑩ 学校の成績（テスト、単元テスト、期末テスト等）が上がった。
8/25 (32.0%)

【質問2】 学び場に対する感想

《態度面》

- ・家よりも集中して勉強した。

- ・解らない問題を先生に沢山質問して理解できた。
- ・友達に質問して理解できた。
- ・私語をせず静かに勉強した。

《情意面》

- ・やりがいがある。
- ・勉強が楽しいと感じる。
- ・勉強に自信がもてるようになった。
- ・学び場に来て良かった。
- ・来年も学び場で勉強したい。

《学力面》

- ・解らなかった問題がわかるようになった。
- ・英語を前よりも読めるようになった。
- ・苦手な教科や解らない問題が少しわかるようになった。
- ・家庭学習の時間が増え、テストの点数が上がった。

《授業の形態面》

- ・解らない問題を先生に直ぐに質問できるのでいいと思う。
- ・友達に教えることが復習になる。
- ・友達が先生から解説してもらっているのを聞いていて勉強になる。
- ・友達に教えることが増えた。
- ・難問が与えられるが解説が解り易いので理解できる。（中3）
- ・学校でやらない難しい問題が与えられるのでためになる。（中3）

《教師の指導面》

- ・英語では細かいアドバイスがあり今後どのような問題に取り組むべきかが解った。（中3）
- ・数学では難関校の文章問題を解り易く説明してくれた。（中3）
- ・英語も数学も解説が解り易い。

【質問3】 学び場に対する要望

- ・1時間30分の授業を1時間15分にしてほしい。（小学生）
- ・休み時間を5分から10分にしてほしい。

○結果に対する考察

【質問1】 について

「自学自習」を原則とする学び場は、児童生徒の宿題や復習をする場として効果的に機能していると考えます。また、学び場での真剣な学習態度が家庭学習に繋がっていることも確認でき、児童生徒の学習意欲の向上に寄与し自主的な学習に繋がっていると考えます。

学年によっては学び合い学習も頻繁に行われ、自力で解けなかった問

題が解けるようになってきていることから、相互作用の効果が表れていると考えます。

自主的な学習姿勢と学び合い学習の相乗効果等により、3人に1人の児童生徒の学力が向上したことから、学び場の存在意義が確かなものになりつつあると考えます。

【質問2】 について

25名の児童生徒の感想の中で否定的あるいは悲観的な感想は皆無であり、全てが前向きな内容でした。そして、その気持ちが次の学習への意欲に繋がっていると考えます。

態度面においては、集中して課題に取り組む、解らない問題を友人や我々教師に積極的に質問して解決できたと考えます。児童生徒の感想とともに普段の我々教師の見取りからもそのことが解ります。

情意面においては、解ることでやりがいを感じ、嬉しさが成就感へと繋がっていると考えられます。この好循環を今後も継続するよう支援します。

学力面においては、30数%の児童生徒がその向上を経験したことは大変大きな成果です。今後はより多くの児童生徒に成果が表れるよう支援します。

授業の形態面においては、児童生徒において自学自習が合っていると考えます。また、中学3年生には受験を意識した難問を課すことが必要であると考えます。

我々教師の指導面においては、概ね支持されていると考えます。教職を退いて10年が経過していましたが、日々の教材研究によりブランクは確実に埋まりつつあると考えます。

【質問3】 について

毎回5分程度の休憩時間を設定する予定ですが、前半終了間際の児童生徒の真剣な取り組みを目の当たりにすると、休憩により彼らの思考過程を中断する勇気が湧かずつい休憩を取り損ねてしまうことが多々ありました。今後は、その時間を確保したいと考えます。

今年1年間は、学び場の初年度であったため、授業形態や内容等について試行錯誤の連続でした。現在も改善の方策を模索中です。今後も児童生徒の学力向上のために尽力する所存です。